



少子高齢化を 生きる

第8回

- 少子高齢化が進む日本。
- その現状と私たちや社会
- ができる対策を考えます。

「結婚能力」育成のために —— 大学で行っている「婚育プログラム」



諸富 祥彦 Morotomi Yoshihiko

明治大学文学部教授。教育学博士。臨床心理士。上級教育カウンセラー。おもな著書に『男の子の育て方』（WAVE出版）『あなたが結婚できない本当の理由』（アスキー新書）『年の差婚の正体』（扶桑社新書）など。

日本の少子化による人口減少の原因の1つは、未婚化・晩婚化にあるといわれています。若者の未婚化・晩婚化にストップをかけ、少子化を食い止めることは、日本にとって何よりも優先して取り組むべき問題です。しかし、事態は深刻です。2010年度の報告*1によれば、男性の生涯未婚率は約2割に達しており、このままの推移でいけば、現在20歳代後半の男性の約3割が生涯未婚になるであろうと予測されています。

では、恋愛し結婚に至るまで、何が壁になっているのでしょうか。どのような能力が求められているのでしょうか。筆者の勤務する大学における授業での取り組みを紹介します。

急激に変化しつつある 若者の男女関係

今の若者の恋愛観が気になった筆者は、「人間の心に関わるリサーチ能力を育成する授業」で、学生たちに同世代の大学生カップルの「告白」に関する調査を行いました。

すると女子学生全体の94%が「男性から告白されたい」と答えているのに対して、男子学生の58%は「女性から告白されたい」と答えており、しかも現在交際中の大学生カップルのうち「女性から告白した」カップルが、実に65%だったのです*2。そこで筆者は、実際に、女性のほうから告白して交際に至った男子学生にインタビュー調査を行いました。

筆者 「あなたも、いいなと思っている子とそうじゃない子とがいるわけでしょう？ どうやって態度を使い分けてるの？」

学生 「そうですね…例えば合コンなんかで、いいなと思っている子が近くに来てくれたら、“君だったらコクッてくれたら、断らないよ” そんな雰囲気^{かも}を醸し出すようにしていますね」

意中の女性が近くに寄って来てくれたら、相手が告白しやすい雰囲気を醸し出す。これが男性の役割だということです。

さらに興味深かったのは、共学校出身と男子校出身の男子学生とではカップル率に大きな開きがみられた点です。共学校出身の男子学生の「彼女がいる率」は3～4割で、交際している女性も年下、同級生、年上と多様であったのに対し、男子校出身者の「彼女がいる率」はわずか1割弱で、交際相手の大半が年上の女性でした*3。

先の調査の結果を見ても、また筆者から見ても、女子学生側にそれほど大きな変化があるとは思いません。一方、男子学生の変化は著しい。授業のグループディスカッションでも、大半の時間を女子学生がリードしています。「男女混合のグループを作りなさい」と指示しても、声をかけるのは女子学生からが大半で、男子学生はひたすら受け身のまま。女子学生から声をかけられてもどうしてよいか分からず、逃げ惑う男子学生もいます。

2011年度の厚生労働省研究班の調査*4で、16～19歳男性の36.1%が異性との性交渉に「関心がない」または「嫌悪している」と回答しており、2年前の調査結果(17.5%)から倍増しているということも私の実感と符合しています。

■「結婚能力」育成のためのプログラムの概要

では今の若者、特に男性が恋愛し結婚に至るうえで壁となっているものは何でしょうか。どんな能力が求められ、それをどんな方法で育成すればよいのでしょうか。

その大きな壁となっているのは、「経済力の低下」「男性（女性）としての自尊感情の傷つきやすさ」「コミュニケーション能力の低下」といえます。このうち、直接育成し伸ばすことができるのは「コミュニケーション能力」、具体的には「話す力」「聴く力」「コンセンサス（同意）形成の力」の3つでしょう。また、「コミュニケーション能力」を向上させることによって間接的に「自尊感情」が向上する効果も期待できます。

異性間コミュニケーションにおけるこれら3つの力を育成するため、筆者は大学生を対象とした「結婚能力」育成のためのプログラム（略して「婚育プログラム」）を作成し、実施しています*5。その内容は以下のとおりです。

- ①「質問力」を磨いて人間関係構築力を育てる。
- ②自分が人に与えるファースト・インプレッション（第一印象）を意識する。
- ③「食事の話題」をもとに会話をつなげる力を育てる。
- ④傾聴のトレーニング。
- ⑤相手の「良いところ」や「頑張り」を見つけて伝えるポジティブ・コミュニケーション。
- ⑥「実は私○○なんです」と自分の弱点をさらけ出す。

- ⑦自分も相手も大切に表現法の育成（アサーション・トレーニング）
- ⑧人生の指針や価値観を語り合う（共同経営感覚を養う）。
- ⑨「35歳の私」を想像し、人生の長期展望を持ち、それを相手と共有する。
- ⑩イメージ伝達の実習(1)「君のオーラは○色」
- ⑪イメージ伝達の実習(2)「あなたを動物にたとえるなら」
- ⑫イメージ伝達の実習(3)「あなたを花にたとえるなら」
- ⑬「最高のデートプラン」を立てる。
- ⑭「最高の告白」を考える。
- ⑮このプログラムで学習したことのふりかえり（シェアリング）。

いかがでしょうか。「何も大学でそこまでしてあげなくても」などと思われた人もおられるでしょう。しかし、私はそう思いません。事実、「このプログラムのおかげで初めて彼女ができました」「異性と関わる時、絶えずビクビクしていたのが、自信を持って接することができるようになりました」といった報告が多いのです。中にはこの授業がきっかけで結婚したカップルもいます。

人生の半分が仕事に費やす時間だとすると、もう半分は私生活で、その中心は家庭です。これまでのキャリア教育*6は、仕事面ばかりを優先し、私生活の面を軽視し過ぎてきたのではないのでしょうか。若者に幸福な人生を歩んでもらうためにこのプログラムは有用です。広く、保護者や教育関係者にも知ってほしいと思います。

- *1 平成22年度版「厚生労働白書」より
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/10/dl/02-02-04.pdf>
- *2 明治大学授業「こころの科学B」2010年度「昨今の恋愛事情に関する調査班」の報告レポート（首都圏の複数の大学に通う大学生男女各100名を対象に調査を行なった）
- *3 明治大学文学部1～2年生対象の授業における調査より
- *4 「第5回男女の生活と意識に関する調査」結果報告会より
- *5 諸富祥彦「明治大学で教える「婚育」の授業」（青春出版社）
- *6 子どもがその生涯（キャリア）にわたって幸福な人生を送ることができるように、必要な知識、態度、スキルなどを修得するよう長期的な展望を持って行う教育活動の総体